

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

## I 実施の状況

### 1. 調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 各教育委員会、学校等が、(1)及び(2)の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
  - ・小学校：国語、算数、理科
  - ・中学校：国語、数学、理科
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### 4. 実施期日…令和4年4月19日（火）

## II 教科に関する調査の結果

### 1. 教科別の状況

- ・小学校においては、国語や理科において概ね良好な結果であったが、算数においてやや課題が見られた。
- ・中学校では、どの教科においても概ね良好な結果であった。

### 2. 領域別の状況

- ・小学校の国語では、「書くこと」が良好であったが、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと」に課題が見られた。
- ・中学校の国語では、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方」が良好であった。
- ・小学校の算数では、「変化と関係」に課題が見られた。
- ・中学校の数学では、「関数」「データの活用」が良好であったが、「図形」に課題が見られた。
- ・理科では、小・中学校共に「粒子」を柱とする領域が良好であった。また、中学校では「エネルギー」を柱とする領域も良好であった。

## III 質問紙調査の結果

- ・小・中学校共に肯定的な回答が多く、望ましい生活習慣や学習習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況が見られる。

- ・本市の課題であった「児童生徒の自己肯定感」については、昨年度の結果と比較すると小・中学校共に肯定的な回答の割合が高くなり、特に小学校では非常に良好な結果であった。
- ・コロナ禍ではあるが、「地域の行事への参加」については、小・中学校共に概ね良好な結果であった。しかし、「地域や社会への貢献」については、何をすべきかを考えている児童生徒の割合が昨年度より低くなり、課題が見られた。
- ・昨年度から1人1台端末が導入されたことを機に、授業における学習用端末などのICT機器の使用率が高まった。特に中学校の使用率は、非常に高かった。
- ・昨年度課題であった「携帯電話やスマートフォン、コンピュータ利用時の約束の順守」については、小・中学校共に昨年度と比べ改善が見られた。

※上記以外に、鹿角市教育委員会の施策と関連のある質問紙の結果については、以下のとおりである。

#### 1 特色ある学校づくり支援事業に関する状況

- (1) 「将来の夢や目標をもっていますか。」という質問項目については、小学校・中学校共に概ね良好であった。

#### 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

- (1) 「学級の友達との間で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問項目については、小学校・中学校共に非常に良好であった。
- (2) 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問項目については、小学校・中学校共に非常に良好であった。

### IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできている施策が、概ね良好な成果につながっている。今後も事業の詳細について見直しを図りながら、一層の充実を図っていく。特に地域貢献や社会貢献については、児童生徒がより一層考えることができるよう、「ふるさと・キャリア教育推進事業」や「特色ある学校づくり推進事業」、「ふるさとかつの絆プラン事業」などを引き続き推進する。また、これらの事業が単なる体験活動のみで終わることなく、児童生徒がそれらを通して鹿角市や広く社会全体について考えるきっかけとなるよう、学んだことを外部に発信するための取組についても支援する。

※上記以外に取り組んでいる事業

- ・児童生徒学力向上対策事業（教科別学力検査、学習集団アセスメント hyper-QU）
- ・外国語指導充実事業
- ・ICT活用教育事業